

各種接着テープの性能に関する研究

— 前端に用いた場合 —

文化女大家政 水上ひろ子 ○小柳明美

目的 被服構成において、接着テープは表地の伸び止めとしての役割が大きく、スーツやコートなどの前端には必ずといって良い程使用されている。接着テープが出来るようになってからは、非常に便利で能率的になった。接着テープの適切な選択の客観的条件を得ようと、測定と官能検査により調べた。

方法 3種の表地（中肉のウールジョーゼット、薄地のポリエステルジョーゼット、60番手綿ブロード）に対して、市販されている3種の接着テープ（ユネックステープ、ダンレーヌ接着テープ、バイリーンWテープ）と接着芯を細いテープにしたもの2種（ステーフレックスMD200、バイリーンGS5）と綿テープ1種で計6種を用い、表地に芯地とテープを接着後の原布と、疲労処理として繰返し伸長（最大1.85%）を50回行なった試料について、機械的な測定と、官能検査によりその性能を求めた。

結果 綿テープを用いた場合は、やわらかさが大であるが、手でかかりつける為表にひびいてしまい、官能検査は良い結果を示さなかった。また、伸長率も小さな荷重では伸びやすかった。不織布は、表に影響をおよぼすことが少なく、官能検査結果は悪くなかったが、伸びやすく、大きな荷重にもたえることができず、疲労度も大きい。そこで、測定値、官能量とも良かったものは織物の接着テープで、中でもユネックステープ、ステーフレックスMD200が伸長性と硬軟性、そして官能量のいずれにおいても比較的良い結果を示した。